

幼小連携の現状と課題

2009年度から実施される新しい幼稚園教育要領では、幼稚園教育から小学校教育への滑らかな移行が重視する事柄の一つとして挙げられました。ここではベネッセ次世代育成研究所が行った「第1回幼児教育・保育についての基本調査（幼稚園編）」（2007年6月に全国の国公立幼稚園を対象に実施）の結果から子ども同士、教員同士の交流の現状を紹介するとともに、幼小連携を進めるうえでの課題を考えていきたいと思います。

調査概要

【テーマ】

国公立・私立幼稚園の教育活動、子育て支援活動等に関する意識・実態調査

【方法】

郵送法
（自記式アンケートを郵送により配布・回収）

【時期】

2007年6月

【対象】

・全国の園児数30人以上（一部、園児数不明の園も含む）の国公立幼稚園の園長・副園長（教頭）・主任の先生（1園につき1名が回答）
・発送数、回収数（有効回答数）、回収率は下の通り

	合計	国公立	私立
発送数	7,100	1,420	5,680
回収数（有効回答数）	1,604	401	1,203
回収率	22.6%	28.2%	21.2%

園児・児童の交流の有無と内容

国公立の84.5% 私立の58.4%が小学生との 交流活動をしたことがある

幼児の地域の人との交流を尋ねたところ、国公立で最も多いのは「小学生」との交流で84.5%でした。一方、私立でもっとも多いのは「中学生・高校生」との交流で67.3%です。一般的に国公立のほうが私立よりも小学生との交流活動が多いのは、設置母体となる自治体が活動を促進していることも背景にあるようです。また、小学校に比べると少ないですが、保育所の乳幼児との交流も国公立では36.7%、私立では9.1%が行っています。就学する小学校が同じになることもあり、幼児同士のかかわりを深めておくことが大切であると言えるでしょう。

図1 地域の人との交流

設問：貴園の園児は、次にあげる園外の人たちと交流活動をしたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

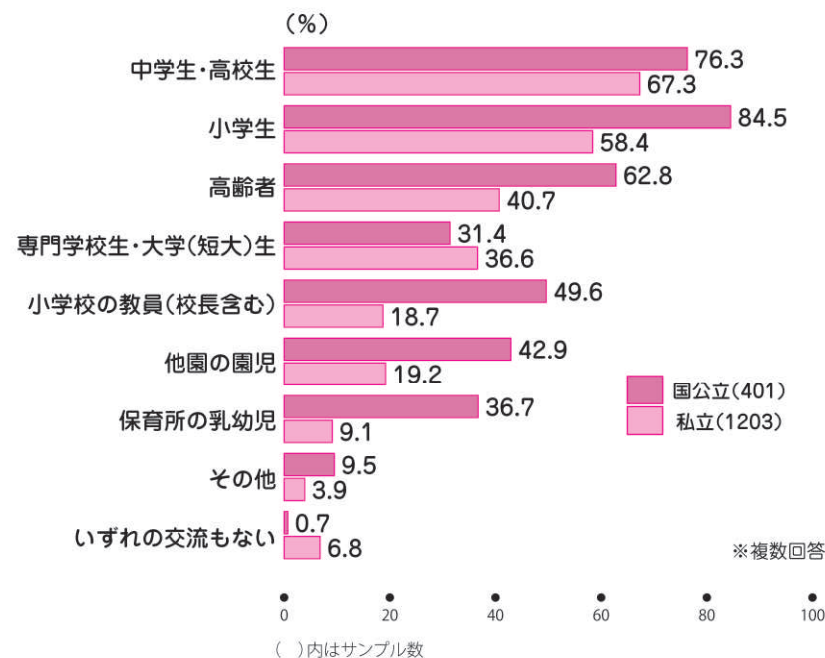
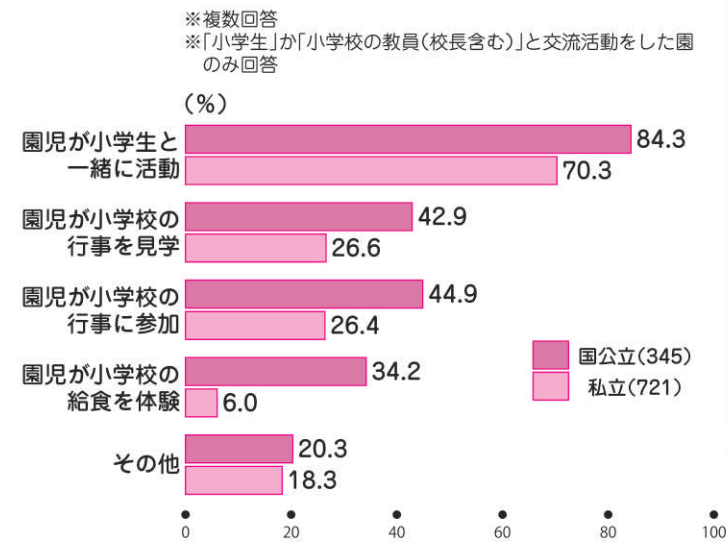


図2 小学校との交流活動

設問：どのような交流や活動の場がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



小学生と一緒に活動する 交流が最も多い

交流活動をしたことがある園に、園児と小学校とのかかわりはどのようなものであったかを聞いたところ、最も多かったのは「園児が小学生と一緒に活動」でした。

園児が小学生と一緒に活動を通して、お兄さん・お姉さんにあこがれをもち、入学を心待ちにできるような機会をつくることが望まれていると言えるでしょう。

教員間の交流有無と内容

教員間の交流は、 国公立の66.6% 私立の26.7%が実施

教員間の交流については、国公立の66.6%、私立の26.7%が交流しているという結果となりました。また、具体的な交流の内容を聞いたところ、「情報交換する場を持つ」との回答が国公立で81.3%、私立で81.9%と最も多いことがわかりました。

子ども一人ひとりの発達の状況や課題について、幼稚園から小学校に伝えたり、保育や指導の目的や内容を情報交換したりするなど、教員同士が互いの理解を深める努力をしている様子が見えがえします。

図3 幼稚園と小学校の教員の交流活動の有無

設問：貴園の教員と近接の小学校の教員は、研修またはスポーツなどで交流をしていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

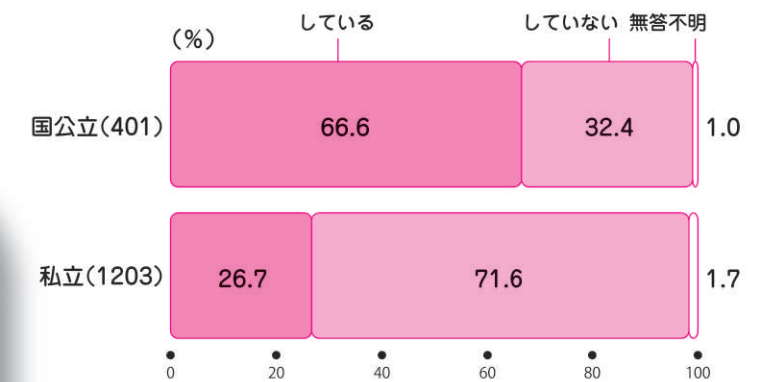
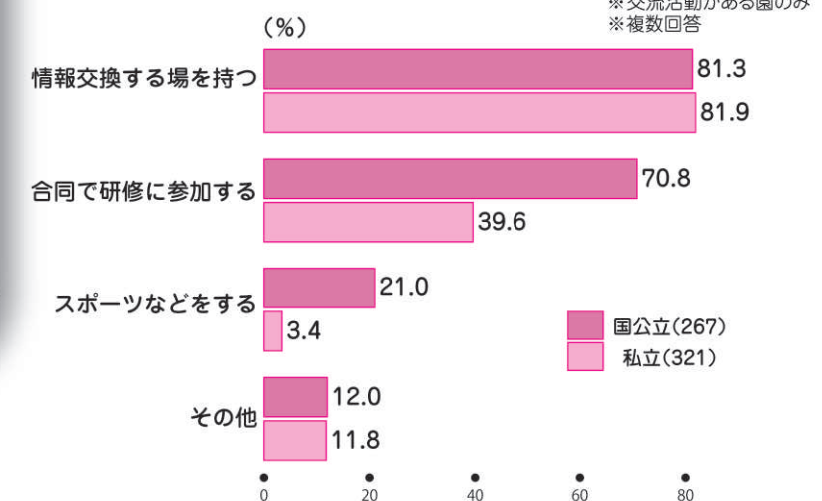


図4 交流活動の内容

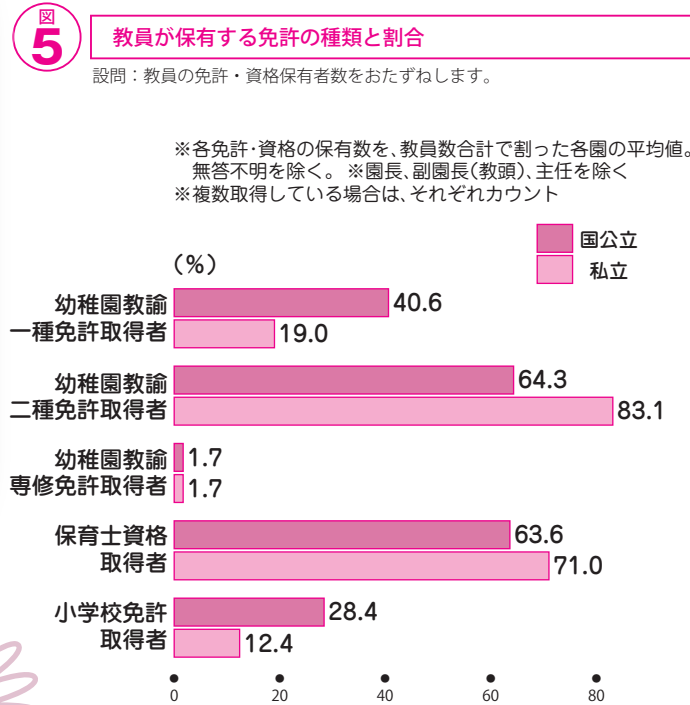
設問：どのような交流がありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。



教員の免許および資格の取得状況

国公立の約3割、私立の約1割が小学校教員免許を取得している

幼稚園教員で小学校免許をもっているのは国公立で28.4%、私立では12.4%であることがわかりました。一方、幼稚園教員の6割以上は保育士資格を取得しています。保育士資格取得者が多い背景には、幼保合同など将来を見据えた設置者の意向も大きいようです。今後の幼児教育の充実に向けて、複数の資格・免許をもつことで子どもへの理解が深まることも期待したいものです。

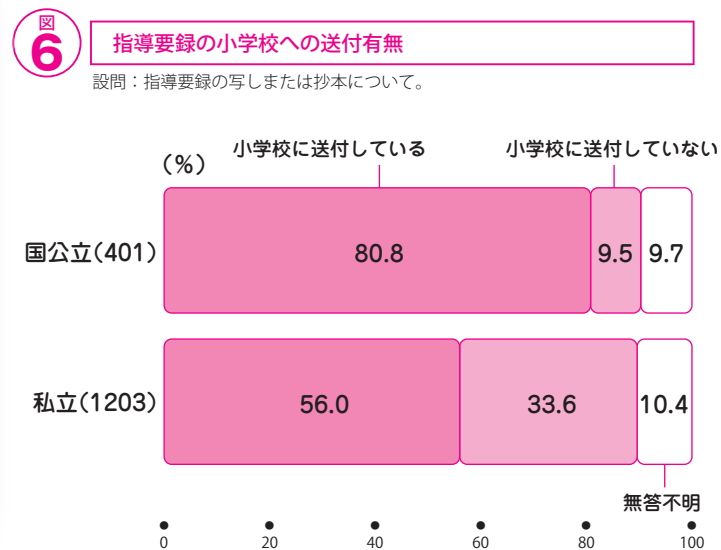


指導要録の送付

指導要録は国公立の約8割、私立の約6割が小学校に送付している

今回の調査では、国公立の80.8%、私立の56.0%が指導要録の写しまたは抄本を小学校に送付していることがわかりました。就学に際して幼稚園からは指導要録を送付することになっていますが、送付していない園では、書面ではなく、教員同士が直接情報を伝える方法を重視していることもあるようです。

指導要録を送付するとともに、相互の話し合いにより、子どもの理解を深めていくことが大切と言えるでしょう。



参 考 デ ー タ 集

幼小連携に関するお茶の水女子大学 子ども発達教育研究センターの調査結果から、具体的な交流の内容や課題についてご紹介します。

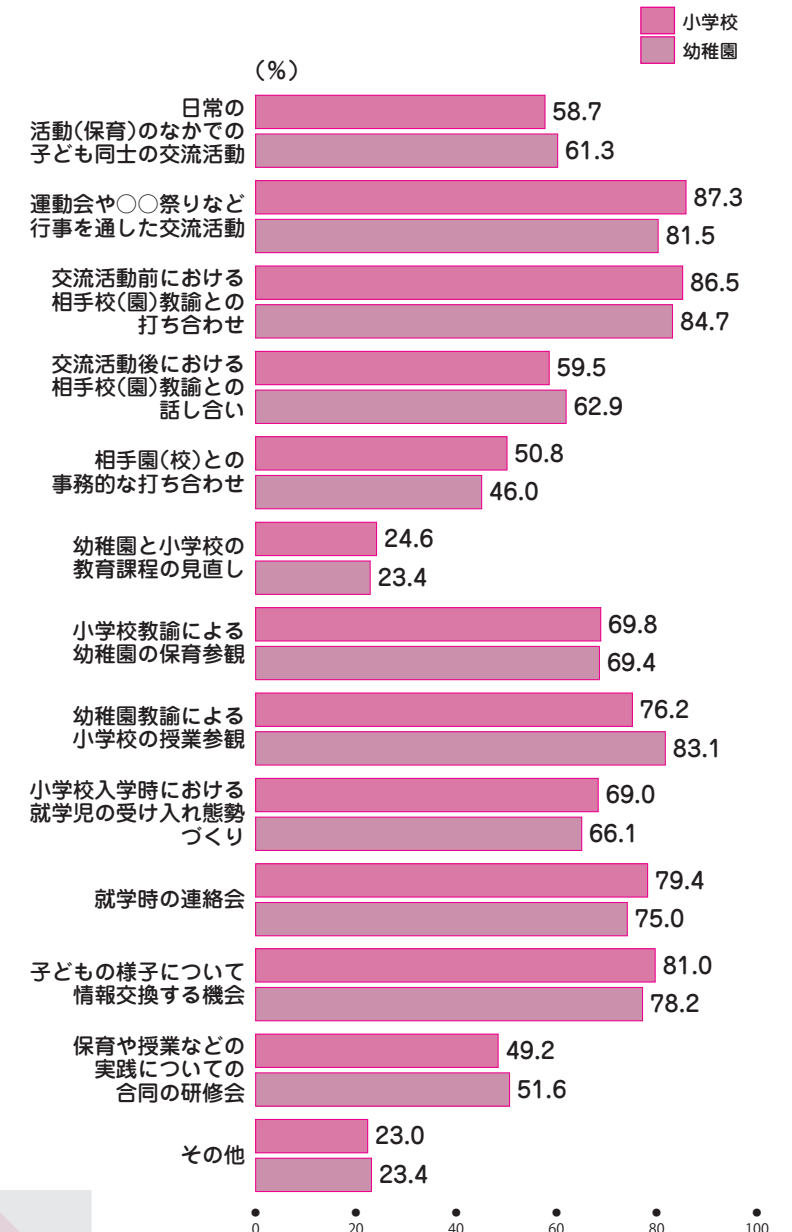
1

全体的に行事や授業参観などイベント型の交流が多い傾向

子どもの交流内容について右の参考データを見ると、「運動会や〇〇祭りなど行事を通じた交流活動」が最も多く「日常の活動(保育)のなかでの子ども同士の交流活動」よりも多くなっています。当研究所の調査(7ページ・図2)でも、園児が小学生と一緒に活動したり、小学校の行事に参加したりするなどの活動が多いことがわかりました。どちらも似たような傾向が見てとれます。一方、教員同士においては、「交流活動前における相手校(園)教諭との打ち合わせ」「幼稚園教諭による小学校の授業参観」「就学時の連絡会」「子どもの様子について情報交換する機会」などが多くなっています。当研究所の調査(7ページ・図4)では具体的な内容の調査をしていませんが、「情報交換する場を持つ」という回答の内訳には、以上のような交流活動が含まれるのではないかと推察されます。



図A 幼小連携の取り組み



調査の概要

【調査時期】
2003年12月中旬～下旬

【調査対象】
全国の都道府県および政令指定都市の教育委員会にリストアップを依頼し、紹介された幼小連携実践校・園(小学校210校、幼稚園190園)

【調査方法】
郵送法による質問紙調査

【対象小学校・幼稚園の概要】
小学校126校、幼稚園125園から回答を得た(回収率62.7%:小学校60.0%,幼稚園65.8%)
※対象校・園の概要

	小学校	幼稚園
公立	123校 (98%)	102園 (82%)
私立	1校 (1%)	20園 (16%)
国立	2校 (2%)	2園 (2%)

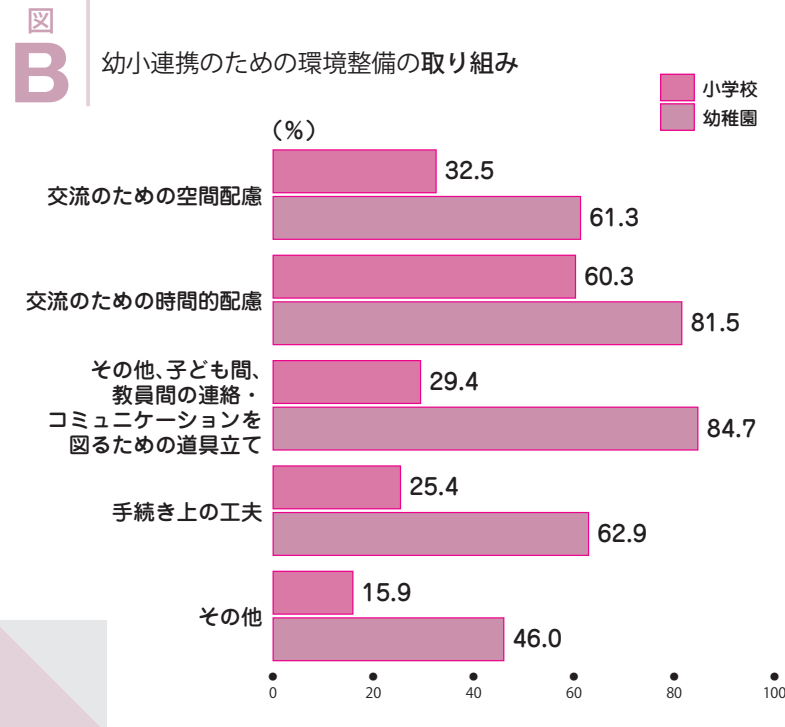
●引用文献 「幼児教育と小学校教育をつなぐー幼小連携の現状と課題ー」(お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター 2005年9月発行)

2

幼稚園の方が環境整備に対しては熱心な傾向

連携のために取り組んでいる環境整備については、幼稚園では子ども間、教員間の連絡・コミュニケーションを図るための道具立て」が最も多いのに比べ、小学校では「交流のための時間的配慮」が最も多いことがわかりました。日々の活動の計画については、比較的自由度が高い幼稚園に対して、小学校ではカリキュラムは教科教育を中心に綿密に組まれており、その中に連携活動を入れ込んでいくことに難しさを感じているようです。

●引用文献 「幼児教育と小学校教育をつなぐー幼小連携の現状と課題ー」（お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター 2005年9月発行）

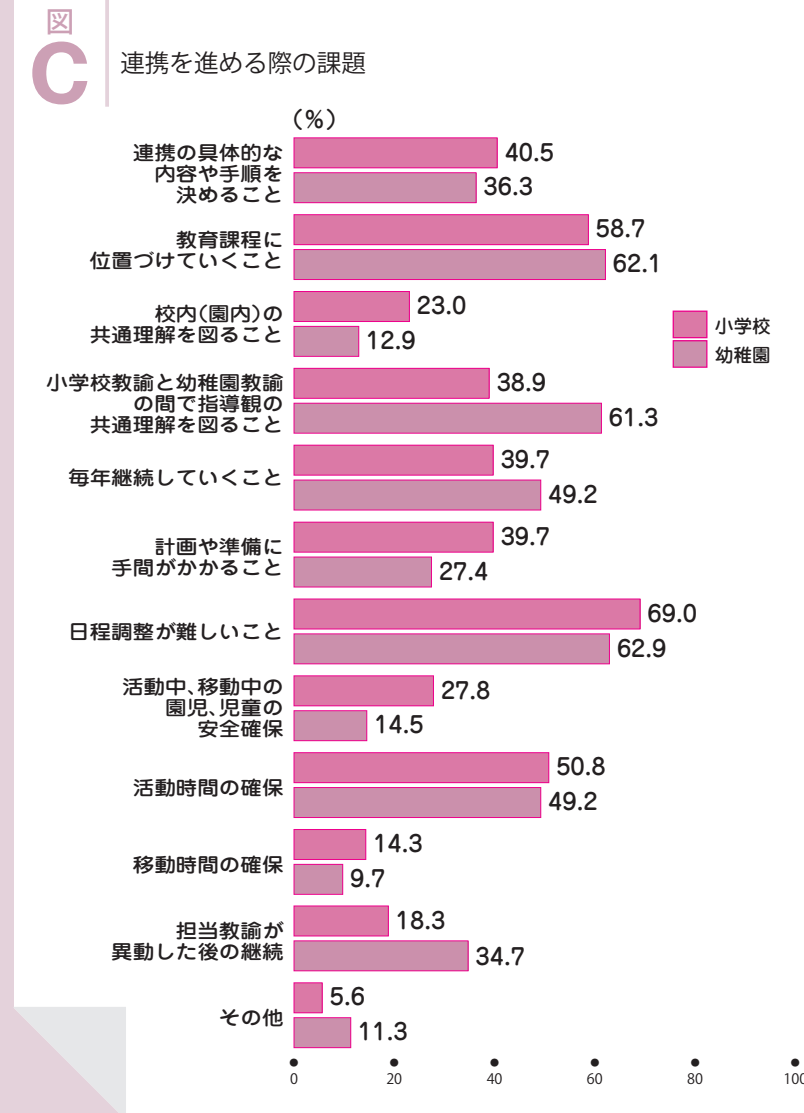


3

最も難しいのは日程調整、次いで教育課程に位置づけていくこと

連携を進める際の課題として、幼稚園・小学校ともに最も多く選択されたのは「日程調整が難しいこと」でした。次に多いのも両者とも共通して「教育課程に位置づけていくこと」でした。双方とも、日々の授業・保育カリキュラムを実践していく中で、互いの都合を調整する難しさを感じているほか、幼稚園教育と小学校教育をつなげる教育課程の編成に困難さを感じていることがうかがえます。

また「小学校教諭と幼稚園教諭の間で指導観の共通理解を図ること」という項目の選択に小学校と幼稚園で差がみられました（小学校38.9% 幼稚園61.3%）。この項目は幼小の移行を考えた時、大きな「壁」と言えるでしょう。そして、これを乗り越えるために子ども達の発達の連続性を考慮して双方で努力し合っていくことが期待されます。



座談会

実りのある幼小連携に向けて

小学校校長が考える、幼稚園との連携の必要性とその方策



今回の幼稚園教育要領改訂では、小学校とのつながりが強調され、子ども同士の交流や教師の連携が求められています。幼稚園教育が小学校以降の学習や生活の基盤をはぐくむことを踏まえ、小学校が幼稚園の教育に期待することは何でしょうか？

今回は、お二人の小学校校長をお招きし、小学校側の視点から幼小連携の必要性や、そのための方策について語っていただきました。

磯部 頼子

ベネッセ次世代育成研究所顧問
元全国公立幼稚園長会会長

増田 進

市川市立行徳小学校 校長

林 恵子

台東区立田原小学校 校長、
台東区立田原幼稚園 園長

■学校プロフィール

千葉県市川市立行徳小学校

校長◎増田 進先生
児童数◎983人
学級数◎32学級（うち特別支援学級5学級）
所在地◎〒272-0115 千葉県市川市富浜1-1-40
TEL◎047-357-3116
<http://www.gyoutoku-syo.ichikawa-school.ed.jp/top/>

東京都台東区立田原小学校

※敷地内に台東区立田原幼稚園を併設。

校長◎林 恵子先生
児童数◎443人
学級数◎13学級
所在地◎〒111-0034 東京都台東区雷門1-5-14
TEL◎03-3841-1656
<http://www.taitocity.net/tawara-es/>